



# すくすく たけのこ



## “見方” change で 子どもの “味方” に！

澄み渡る青空の下、青々と茂る木立の葉がキラキラと輝いています。子どもたちは、清々しい初夏の風を受けながら、太陽の光に煌めく自然の美しさを存分に味わっています。

さて、今回は“子どもの見方”をテーマに、「視点を変える」「視点を上げる」ということについて考えてみたいと思います。

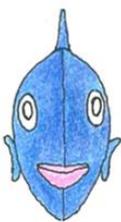
“視点”とは、視線の注がれるところ、物事を見たり考えたりする観点のことです。したがって、子育ての視点とは、わが子に“どのような視線”を注ぎ、その子を“どのような観点”から見ているかということになります。



### 先生！全部 それ お魚だよ！

長く教員をしていると、さまざまな子と出会います。

あるときのこと。海にいる生き物をテーマに絵を描かせたことがありました。すると、一人の男の子がこんな絵を描いたのです。一瞬、目を疑ったわたしは、「何これ？ 新しいウルトラマン？」と尋ねると「先生、何言ってるの。魚だよ、お魚！」との返答。「これは、お魚を前から見たところ！」と教えてくれました。



そして魚好きの彼は、「これが、お魚を上から見たところ、後ろから見るとこうだよ」と得意げ



に次々と魚の絵を描いてくれたのです。

なるほど、これは全部、魚に違いないと納得したのを覚えています。

私の頭の中にイメージする魚の姿と言えば、頭が左で、尻尾が右の横姿。



でも、その子がイメージする魚の姿は全く違いました。このことが、私が視点についてより深く考えるようになった出来事です。

### その1 見方を変える！

育児漫画家・絵本作家である高野優さんが、「最初の子が土を食べたら、親は慌てて医者に電話をする。」

2番目の子が土を食べたら、親は子の口を洗う。

3番目の子が土を食べたら、親は『ランチいらなくかも』と思う。」

こんな面白い英語の名言を紹介しながら、自身の三姉妹の子育てを振り返っていました。

「長女の子育ては、毎日が緊張の連続。起きている時は誤飲をしないように、けがをしないようにとハラハラして、眠っている時は息をしているかどうか心配で、呼吸の確認をしてばかり。それが、次女の時は“なるようになる”、三女の時は“笑っていれば十分”と思うほどいいかげんに。『いいかげん』という言葉は否定的に聞こえるけれど、実は『良い加減』と肯定的な意味もあるらしい。疲れてへとへとな方、一緒に肩の力を抜いて『いいかげん』になってみませんか？」と。



この話を聞いて、「その通り！」と笑みを浮かべた子育ての先輩も多いはずですよ。

一生懸命になるあまり、偏った見方で子どもに接することもよくあることです。“ほったらかし”と“かまひすぎ”は、子育てで、気をつけたいこと。「**良い加減**」になる「**いいかげんさ**」も大切にしたいですね。

## その2 見方を上げる！

私はよく屋上に行きます。

特にこの季節は、青空をバックに新緑の森が広がり、心地よい薫風が肌に触れて、心が広がっていきます。



高い所から眺めると、さっきまでこだわっていた問題が小さく感じられることがあります。不思議なものです。

時には、悩みを抱えた子どもとの相談場所として屋上を利用することもありました。

心のモヤモヤをひととおり聴いた上で、一緒に遠くの山々や青空を見ながら大きく深呼吸をします。すると、すうーっと心が落ち着いていくのです。

「深呼吸」は、無意識に行っている「呼吸(息)」とは違い、意識的に行うもの。「**息**」は「**自らの心**」と書くことを思えば、**深呼吸は、深く自らの心を振り返ること**とも言えます。

しばらく話をすると、「うん、先生、がんばってみる！」と答えてくれたことが何度もあったことを思い出します。

悩んだときは、**階段を一步上ったつもりで視点を上げ、目の前の子どもを眺めると、新しい発見や解決の方途が見つかる**と思います。



## その3 子どもの味方(ミカタ)に！

子どもも大人も結果を出すことは大事ですが、それ以上に**その過程も知っておいてほしい**ものです。

創立者は、子どもの持つ多くの可能性を見出すために、**プロセス(過程)**について、つぎのよう述べられています。

山本伸一は、教育にとって大切なことは、安易に結果を求めるのではなく、物事のプロセスを習得させることだと思っていた。

(中略)

児童を結果のみで評価しようとするれば、その評価の基準は、極めて限られ、画一化されたものになってしまう。しかし、プロセスを評価しようという目をもつならば、より多くの可能性を見出すことができよう。

(『新・人間革命』若芽の章より抜粋)

**プロセスを評価する目を持つためには、相手(子ども)のことをよく見ていく**ということが大事です。

「**こんなこともできるように なったんだ**」「**そんなふうに 感じていたんだ**」など、そこには、さまざまな気付きがあるはずですよ。

そしてもう一つ。プロセスを評価するには、その**行為を認める目をもつ**ということです。

「**認める**」とは、「**言(ごんべん)**」に「**忍(しのぶ)**」と書きます。言いたいことも時にはグッと堪忍して、その子のたどってきた**プロセス**をよく見ながら受け止めていくことが、**子どもの可能性を引き出して**いくのです。

最初は、上手くいかないことも多いでしょうが、「**子どもにとって一番適切なタイミングで、最高の励ましの言葉をかけてあげられる自分**になろう」とわたしも取り組んでいます。

“見方”が変わることで、子どもとの信頼が深まっていきます。

“**見方**” change で **子どものサイコーの“味方(ミカタ)”**になっていきましょう。(晃)





# 自然につつまれて

スケッチ大会をしたり、野菜の植え付けをしました。

